

古典的ハリウッド映画、すなわち、広くは 1910 年代末から 1960 年頃まで、狭くは 1930 年代半ばから 1950 年代前半頃までの、秩序や調和を重視し、ストーリーテリングの分かり易さと効率性を旨としたスタイルのハリウッド映画（これは撮影所システム全盛期のハリウッド映画とも言い得る）においては、同じものやことを三度反復することが、常套的な手法あるいは鉄則として、重視され多用された。そして、こうした三度の反復は、古典的ハリウッド映画においてのみならず、古典的ハリウッド映画の影響を強く受け、その主要な原則や技法を基本的には踏襲する古典的な作り方の物語映画（以下古典的ハリウッド映画をも含めて古典的物語映画と呼ぶ）において、今日に至るまでしばしば活用され続けている。

映画史研究においては、デイヴィッド・ボードウェルの議論（Cf. Bordwell, David, Janet Staiger and Kristin Thompson, *The Classical Hollywood Cinema. Film Style & Mode of Production to 1960*, Routledge & Kegan Paul, 1985.）に代表される様に、古典的ハリウッド映画における三度の反復を、物語において重要な情報を強調する手段、すなわち物語上重要な要素を観客に印象付ける技法として捉える理解が一般的であろう。ボードウェルが言及する「頭のいい人のために一回、普通の人のために二回、[...] 鈍い人のために三回」という、古典的ハリウッド映画時代に映画人の間でよく使われたという表現が、こうした見方が作り手の側でも決して珍しいものではなかったことを示してもいよう。

しかし三度の反復の機能は、物語上重要な情報の強調のみに限られるものでは決していない。古典的ハリウッド映画において、そしてより広くは古典的物語映画において三度反復されるのは、物語上重要な特定の対象や人物、モチーフ、あるいはセリフ等ばかりではない。物語上ではそれほどの意味を持たないと思われるセリフ、動作や身振り、音、シチュエーション（あるいはこうしたものの内の複数が複合したもの）等々の様々なものが三度の反復の対象と成り得る。そもそも、従来の映画学研究においては、古典的物語映画における三度の反復の多様性と重要性とが十分認識されて来なかったのではないか。

本発表においては、そもそも映画において三度の反復はどのような多様性を持ち、そしてどのような機能を果たし、どのような効果を発揮しているのかをまず確認する。さらに、そうした効果ないし機能はどのようにして可能となり、またどのような理由から必要とされるのかを明らかにしたい。その際には、隣接する他の芸術分野（文学・演劇・話芸等）をも出来る限り考慮に入れつつ議論する。